

「意味と内容」が
ひろがる学びの創造

互いのまなさが
共鳴することによって

CONTENTS

夏季公開研修会の案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 学習紹介「かたまりから うまれる うまれる」(1年 図工科)・・・・・・・・・・・・ 2
 学習紹介「コンパスをつかう前に.....」(4年 算数科)・・・・・・・・・・・・ 3
 学習紹介「マクロとミクロがリンクする“科学的な見方・考え方”は、ゆが?」(3年 理科) 4
 学習紹介「共鳴を意識したふりかえりカードの活用」(34年複式 国語科)・・・・・・・・ 5
 学習紹介「どの子もしっかり声を出して音声表現できる国語教室を目指して」(5年国語科) 6
 学習紹介「いろいろな世界と自分の関わり合いを考えることを大切にしながら」(理科専科) 7
 学習紹介「聖武天皇の大仏づくり」(6年 社会科)・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

夏季公開研修会のご案内

今、教科のあり方が問われています。ともに、研修しませんか？

7月28日(木) 9:30~12:00

国 語	第1部は 授業における音読指導の活かし方のパネルディスカッション。 第2部は武西良和先生(有功東小学校長)によるワークショップ。あなたも一緒に詩作に挑戦してみませんか。
算 数	中学年における「わり算」の指導 課題別学習(少人数指導)を通して 豊かな数感覚の上に立つ「計算力」をテーマとした実践を紹介し、お互いに交流しませんか。

13:30~16:00

音 楽	鑑賞の可能性と課題を追究した実践「私のお薦め30曲!」。単元の進め方をはじめ、使用教材、プリント、DVD、CD等すべてを紹介し、
家 庭	1学期に取り組んだ「朝食作り」「布ウォッチングから小物作りへ」の実践紹介を中心に、授業に役立つ教材づくりについて考えます。
複 式	国語や算数における同時間接指導、また異学年間の交流など、複式指導(少人数指導)ならではの実践とその成果や課題について考えます。

7月29日(金) 9:30~12:00

生 活	対象に意欲的にかかわる子ども「活動や体験を実感する子ども」「よさを発揮できる子ども」。この3つをめざす子どもの姿として取り組んだ実践を報告します。
理 科	「感動」体験を大切に理科学習 二次情報の有効な活用法について、1学期の実践を通して紹介します。また、和歌山市の理科研究会からの発表もあります。
体 育	単元構成するときに「機能的特性」と「子どもからみた特性」の兼ね合いは難しいものですね。「機能的特性」を大切にしながら、「子どもからみた特性」を重視した単元構成について実践報告をもとに考えていきます。

13:30~16:00

社 会	いっしょに「ネタ」さがしをしませんか? 東洋精米製作所の部屋さんをお迎えして、精米技術のこだわりについて教えていただきます。その後、みんなで単元計画を考えませんか?
図 工	1学期に取り組んだ実践を中心に、子どもの思いや表現に寄りそうみとり、適切な支援について考えます。

のついている教科は、事前申し込みが必要です。参加費はすべて無料です。
 部会の場所は受付でご覧ください。研修会開始30分前から受付になっています。

かたまりから うまれる うまれる
 ~ 「ねんど ねんど」まほうの じゅもん ~

図画工作科
 1年C組 担任
 西井恵美子



だいすき ねんど

昨年度より、動き・表現と言葉の連動性について考え、実践してきた。今年度も引き続き取り組んでいきたいと考えている。本実践は、入学して1ヶ月の子どもたちが大好きな粘土を使い、手指ののびのびと使いながらかたちをつくり、楽しむ学習である。粘土の魅力は大きさ・かたちが様々にかかわるところ。かえていく過程にいろいろな手指の動きが表れるので、子どもたちはその感触を楽しみ、自分の思いのままにかわる姿に心地よさを感じていくのである。「まるめる」「のばす」「つまむ」「たたく」「つなげる」「ちぎる」「くっつける」など、手指だけでもたくさんの表現があり、また、ヘラなどの道具を使うと「きる」「ひっかく」「押してかたをつける」「もようをかく」など、どんどん表現がひろがっていく。このようなシンプルで、かつ、感覚を研ぎ澄ましてかかわることができる素材は、低学年の子どもにとってふさわしいものである。

そこで本実践では、単につくりたいものをつくるだけでなく、「ねんど ねんど！」という言葉でじゅもんのように口にしながらいって行くことにした。粘土のかたまりを小さくヘラで切りたときも「ねんど ねんど」とじゅもん。でこぼこの粘土を丸めたいときも両手で包みこみながら「ねんど ねんど」のじゅもん。手のひらの粘土を長くのばしたいときも「ねんど ねんど」のじゅもん。そのように、言葉を発しながら表現活動することで、自分の思いを素材へそそぎこむ姿や、また、力が入りやすくなり、より一層意欲をもってかかわる姿があった。そんな中でできあがった、もしくは、かわっていく粘土の様子を、子どもたちは

ねんど ねんど！！



つつんとげ！

自然と「ころころだんご」「によろよろへび」「つつんとげ」などといった言葉に置き換えて活動していた。これまでの幼児期に、粘土を使って遊ぶ経験を多かれ少なかれしてきた1年生の子どもたちの学習として、手指の感触を楽しむだけでなく、その表現や活動に言葉を連動させたり、言葉に置き換えて表現したりすることで、学習の深まりをもたせることができた。



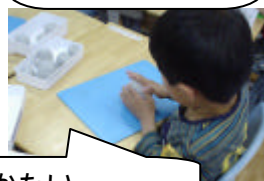
「ねんどねんど」

また、今年度の図画工作科の研究テーマを、「もてる力を発揮し、心地よさを味わう学習」として取り組んでいる。ここでいう“心地よさ”とは、一人一人がもっている思いやねがいをふくらませ、具体的な形に表すために、自分らしい表現方法や色合いなどをつくり出す心地よさと、自分の思いやねがいを表現できた喜び・満足感を友達に伝え、受け入れられたり、認められたりすることで感じる心地よさを指している。いろいろな材料を集め、かきたいものやつくりたいものをみつけ、手やからだ、用具を使って、のびのびと表現する子どもを育てたい。そのためにも、子どもたちが心地よさを感じ、瞳を輝かせ、持てる力を発揮できるような夢のある学習を計画していきたい。



ねんど ねんど！
 ころころだんご
 つんでつんで.....

ん～、かたい・・・



ともだちのとくっついて
 つながったよー！



こんなのできたよ。
 うまくいったあ！

コンパスをつかう前に.....

4 学年「三角形」の学習より



算数科

4 年 B 組 担任
梅本 優子

「 2 つの辺の長さが等しい三角形を“二等辺三角形”, 3 つの辺の長さがみんな等しい三角形を“正三角形”といいます。 」二等辺三角形と正三角形の意味を学習した後, 操作的な活動を通して, 二等辺三角形や正三角形の概念を深めていく学習の流れが多く見られます。教科書では, 色紙やコンパスを使って二等辺三角形や正三角形をつくった後, 教科書に載っている三角形を写し取って, 角の大きさを調べたり, 円の半径を利用して二等辺三角形や正三角形がかける理由を考えさせたりする学習活動が多いようです。

1 つ 1 つの算数的活動がこま切れのように感じませんか?

二等辺三角形と正三角形の意味を獲得した子どもたちに, 「工夫して, 二等辺三角形や正三角形をつくろう! 」と投げかけると, 子どもたちは既習内容・既有経験を駆使して, 実にすばらしい二等辺三角形・正三角形をつくります。そして, つくっていく過程でそれぞれの三角形の性質や特徴を自分たちでどんどん見つけていきます。

色紙でなくて, 長方形の紙を折っていても, 二等辺三角形はできるよ。かどとかどをぴったり合わせれば二等辺三角形だよ



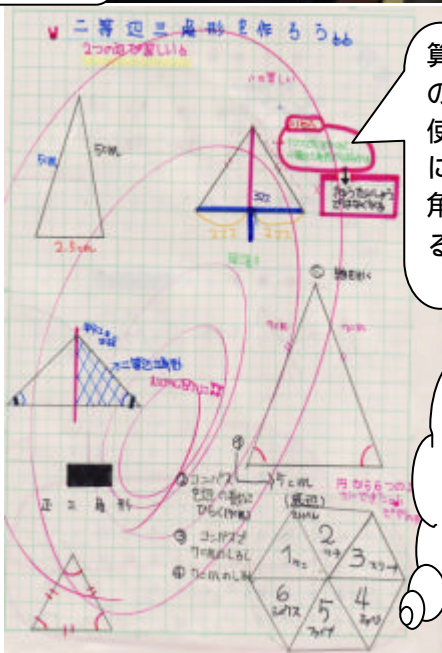
なるほど.....!! 二等辺三角形って下のかどとかどの大きさが同じなんだね!!



色紙を折って, 二等辺三角形をつくった残りの直角三角形を組み合わせても, 二等辺三角形ができるよ!!

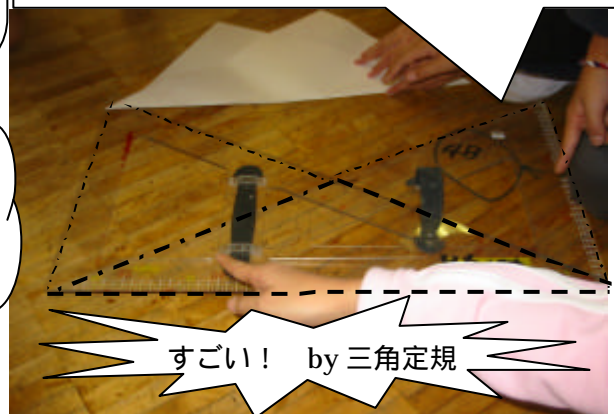


こんなふうに三角定規を組み合わせても, 二等辺三角形ができるよ。それから, ここに正三角形ができるんだ。真ん中から折ると, 重なるよ.....



算数ノートのマス目を使うと, 簡単に二等辺三角形ができるよ。ほら!

円から 6 つの三角形誕生! 二等辺? 正?



すごい! by 三角定規

コンパスを使って二等辺三角形や正三角形をかく前に, 子どもたちの豊かな発想・算数観に任せてみませんか? すばらしいアイデアや次なる課題につながる発見がいっぱい!! ぜひ, おためしてください.....。

マクロとミクロがリンクする “科学的な見方・考え方”はいかが？ ～ 3年理科「生き物たんけん」の学習より～

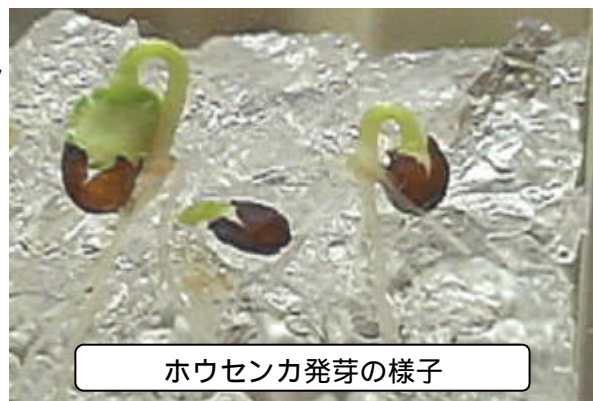


理 科
3年C組担任
中井 章博

単元「たねをまこう」では、ホウセンカとマリーゴールドを扱った。子どもたちは、たねの大きさや色・肌触り、虫めがねを用いて種の表面の模様なども観察し記録する。細かく捉えて観察することをミクロな見方・考え方、また、先を見通して「いつごろ芽が出るのだろうか？」と予想を立てたり、時系列的に観察したりすることなどを、マクロな見方・考え方とした。ミクロとマクロをうまくリンクさせることで、子どもたちにより確かな科学的な見方・考え方が身に付くものと考えている。

子どもたちにとって、ミクロな見方・考え方はやさしいといえるが、マクロ的な見方・考え方は難しいようである。それは、時系列的な見通しを持っていたり、ミクロ的な見方を積み重ねた結果得られたり、ミクロとミクロとを意図的につなぐことによって、できるものだからであると考えている。

このミクロとミクロを意図的につなぐ目的で、そして、生命の力強さを感じ取ってほしいという願いから、情報機器を活用することにした。子どもたちは、ホウセンカのたねを観察している。そして、発芽する様子も観察している。これらのミクロ的な観察をつなぐ目的で、今回は、「ホウセンカ発芽の微速度撮影ビデオクリップ」を作成し、使用した。



ホウセンカ発芽の様子

子どもたちは、一人一人、たねのどの部分から子葉や根が出てくるのかという予想を立てていた。しかし、土の中での出来事を見ることはできない。そこで、透明な容器と透明な土（園芸用高分子水分吸収体）を使用し、ホウセンカの6日間の発芽の様子をインターバル撮影し、30秒間のビデオクリップにまとめ、授業で使用した。このビデオクリップを使用することにより、子どもたちの心の中に、「こんな小さなたねの中に芽や根や茎のもとが詰まっているなんて、すごい！」、「こんなに踊りながら茎がの

びてくるなんて、思いもよらなかった。」といった感動が生まれ、その後の先を見通した（マクロ的な）観察にも生かされた。

このように、理科学習の中で普段見ることのできない様子を、ビデオクリップなどを使用して教材化することは、ミクロとミクロをつなぐ意味で有用であるし、感動を与える意味でも、また、思考をひろげる意味でも活用性は高いと考えている。



真剣なまなざしでスクリーンを見つめる子どもたち

この実践の詳細につきましては、7月29日（金）に本校で行なわれる夏季公開研修会（理科）で報告させていただきます。

三・四年複式学級 国語科の実践『共鳴を意識したふりかえりカードの活用』

昨年度より、物語教材の学習では、子どもたちの学びのまとめとして、毎時間「読みの深まり・ひろがり」ふりかえりカードを活用している。今年度はさらに、「心にひびいた友だちの意見と、それを自分はどう取り入れたかも書く」という目標をもって取り組んでいる。

本校の研究主題に関わる「子どもまなざしの共鳴」の実現を願ったことはもちろん、子ども同士が相互に関わりながらの学び合い深め合いは、同時間接という複式国語の指導における生命线だからである。

「きつぎの商売」において初めて書いた三年生のカードから(氏名以外は原文のまま)

RS:今日はじめて、書きこみノートに書いたきもちをはびょうじしました。四分音ぶんよりうんと長い時間がすぎていきました。「のこころで」「サービスティしたYNくん。それはわたしもせんせいです。だって、四分音ぶんよりずっと長い時間なのに、たぶん、100リルだと思っからです。

はじめて書きこみノートに書いたきもちをはびょうじしたかんそうは、少し分りにくかったけど、いけんをはびょうじするのがとっても楽しかったし、みんなのいけんをきくのが、とてもせんせいにりました。こころをきくとき楽しみにしています。

AH:YNくんがうんと長い時間がすぎてゆきました。(のこころを)サービスティしたのちがういけんです。ぼくはじめてもい音だったので、もて聞いていたかたのほうと長い時間がすぎていたんだと思いません。

NY:TTくんがはびょうじしてくれな、お店をひりきましたの、TTくんが思った事は、きつぎのぼくはたくさんの人とふれあいたかったと思います。「と」

てくれました。私も、きつきさんも私たちのように、友だちがたくさんほしかつたので、お店を開いたと思ったので、心にのこりました。でも、私が言ったそれだけではなんだか分りにくいところのいけんで、「おきゃくさんの事を考えている。」と思ったのが、一番このきつき商売でたい切だなーと思いました。それに、きろくのAHくんも、「PT用紙につすのも、習った漢字は、すべて書いていたので、えらいなあと思いました。私は、し会なので、たくさんいけんをはびょうじしてほしいです。これからもし会をがんばります。

次時は、三人がカードを発表するところから始まった。

子どもたちの関心が、この作品の主題と、「うんと長い時間がすぎていきました。」に集中したことは言うまでもない。「すてきないい音」「野うさぎは、きつきを見上げたまま、だまって聞いていました」「きつきも、うっとり聞いていました」などの表現を根拠に、ただのサービスティではない、「うっとり」するほどの「コーン」の「うんと長い時間」を分かち合い、やがて「ぶなの森にこだましました」をも考えに入れながら、「コーン」を再現する子が一人、また一人…。

NY:今日の私が心にのこりたいけんは、AHくんがはびょうじしてくれなうんと長い時間のこころで、きつきさんが自分にもサービスティのことで、私もよく考えたら、はじめのほうにすてきないい音とがいて、のこころで、わなうんと長い時間をたせたとおもう。せたい回は、みんなはびょうじしてくれませんでした

西村 充司



が、今日は、みんなはびょうじしてくれしたので、よかったです。今日の国語の時間は、4年生にちかずついたかんじがする時間でした。

子どもたちの学びの実際を詳しく紹介することができず残念だが、このふりかえりカードの内容の通り、三年生の八人がAHくんの思いに共鳴し、同時に、教室内には、うっとりするような「コーン」の声が共鳴した。

このように、まなざしが共鳴した子どもたちの発言は積極的で、学習リーダーでもあるNYさんがいかにスムーズに司会進行できたかは文面からも察しの通りである。

そうして、すぐ隣で互いに関わり合いながら意見交流する四年生の「三つのお願ひ」の学びを手に、少しでも近づこうと意識し、それを実感できた喜び、自分たちの学びの姿の高まりにも触れている。

個々の文章表現には課題も多く、書くことを日常的に取り入れながら少しずつ基本的な事項から高めていかなければならない。しかし、このふりかえりカードへの記入を続けていくことで、お互いの考えを大切にし合い、活かし合う、よりよい自分たちの学びづくり結びついてほしいとおもう。

そうして指導者は、このカードからも子どもたち一人一人の考えや思いに触れ、子どもたちの学びへと返していきたい。

後日、「コーン」「コーン」「コーン」「コーン」と、だんだん小さく、チームの四人でリフレインさせながら群読したことを追記しておく。

どの子どももしっかり声を出して音声表現できる

国語教室を目指して

齋藤孝氏の著書『声に出して読みたい日本語』（草思社）がベストセラーとなり、書店のおすすめ本コーナーには、関連書籍が所狭しと並んでいる。また、同氏が監修するNHK教育テレビの番組「にほんごであそぼ」も人気を集め、ビデオやDVDが発売されるなど、最近では“空前の日本語ブーム”と言っても過言ではない。日本語のリズムを感じながら声に出して読むことが見直されつつある。

昨年、一昨年と中・低学年を担当し、国語科における音読指導の在り方について考えてきた。声に出して読むことを好む子が低・中学年には多いが、高学年になると、少しずつ陰りが見られようになる。5Cの子どもたちも例外ではない。しかし、子どもたち一人一人に目を向けて見ると、「読むことは好き。」なのだ。みんなの前では照れが生じるようだ。もちろん、「そんなのへっちゃら。」という子もいる。そんな子たちに引っ張られるような形でもいい。声に出して表現することを楽しむ中で、国語の力を伸ばしていきたいと思う。ブームに乗っかり、どの子どももしっかり声を出して音声表現できる国語教室を目指し、まずは朝の会からスタートを切った。



5年C組担任
須佐 宏

リズムを感じ、しっかり発声。 気持ちのよい一日の始まり、始まり



この日のお題はまど・みちおさんの『はひふへほは』一人読みに挑戦

一人では恥ずかしがって読みたがらない子も、みんなて声を合わせ、リズムカ
ルに楽しむ音読は好む。5Cでは、朝の会で2日に1編の詩を紹介している。まずは、自由に声に出して読んでみる。手拍子を打って楽しむ子もいる。一人で音読に挑戦する子もいる。友達とペアやグループを作って群読を始める子もいる。そして、最後にみんなでリズムを楽しみながら声に出して読んでみる。朝の会に日本語のリズムを体感する場、自分の声



4,5月はリズム詩が中心
自然にリズム打ちする子も

をしっかりと出せる場を設定し、気持ちよく一日のスタートを切れるようにすると同時に、国語科学習への基礎を培えるようにしている。

音読から朗読へ

～だれにどんなことを伝えようとして読みますか～

国語の授業で、教材文を指名音読させると、文字面だけを見て詰まらずに読もうとする子がいる。しかし、それではその子自身、文章理解ができないし、聞き手にも内容が伝わらない。私たちは難文に出合ったとき、無意識のうちに小さな声に出して読んでいることがある。音声表現と文章理解は表裏一体なのである。理解したことを聞き手に伝えようとするほど、表現は豊かになっていくし、豊かな表現がより自己の文章理解を深めることにもつながると考えている。よって、子どもたちには、文章内容が聞き手に伝わるように意識した音読が朗読であることを伝え、より「聞き手意識」をもって音読できるように促している。

初発への振り返りを大切に

～「朗読意識」の変化を確かめながら～

本年度、教科部国語科では、初発をこれまで以上に大切にし、読み深めながら、自己の初発を振り返ることを繰り返し、初見の文章を大きくつかむ力の育成に取り組んでいる。初発で自分はどんなことを感じるのか、また、筆者が伝えようとしていることは何だと読むのか、それはなぜなのか、よってどんなことを意識して音読するのかなどを明らかにさせ、それぞれの初発を交流した上で、読み進めていく。読み進めながら、常に自己の初発へ振り返る機会を設けていくのだが、5Cでは、授業の始めに学習場面の「朗読意識」【どの部分で読み手にどんなことを伝えようとして読むのか、また、そのためにどんな表現の工夫をするのか】を明確にし、友達との読み深めによって授業後、自己の「朗読意識」がどう変化したのかを確かめられるようにしたい。それをもとに自己の初発を振り返ることで文章全体を意識した読みができるようにしていきたい。

本年度、教科部国語科では、初発をこれまで以上に大切にし、読み深めながら、自己の初発を振り返ることを繰り返し、初見の文章を大きく

いろいろな世界と自分の関わり合いを
考えることを大切にしながら



理科専科：不野和哉

本年度の教科部理科研究テーマの主軸には「問題解決の過程を楽しむ」ということを掲げています。理科授業を組み立てるときの基本的な観点を今更なぜと思われるかもしれません。それは、子ども達にあれこれと自然科学の知識を一方向的に教え込ませるようなことはしないんだという私たちの何よりも大切にしていきたい姿勢を表しています。なぜなら、私たち人類は自然の事象・現象について疑問を抱き、推論を重ね、実験・観察を繰り返しながら情報を収集し、分析・考察を行い、総合的にとらえながら、未知なるものを解明し、さらに新しいものを創り上げてきたのです。この繰り返される過程の中にこそ子ども達に育てていきたい確かな学力があると考えからです。

また、理科の目標には「自然に親しみ…自然を愛する心情を育てる…」というステキな項目をみることができます。これは、とりもなおさず理科という教科は、自然と対決するものではなく、子ども達もつ知覚を総動員して自然を愛する心をも培うものであるということが理解できます。ここに理科という他の教科にはない特性を見出すことができるように思います。すなわち、「自然」というものがもつ力による子どもの変容、いえ、子ども的人格形成をも成し遂げようとするものであるとい



うことなのだと思います。確かに人類は、植木や校庭の草花、そこを飛び交う虫や花に集う虫、空の蒼さや風のにおい、あらゆる季節の変化の移り変わりに心を重ね、自然の美しさや偉大さに胸うたれる、そこから数多くの文化を創り出してきたのです。このように理科教育に携わる楽しさと重い責務を感じてなりません。



今、子ども達は、生息場所が少なくなった関西タンポポまでもが咲き誇り、数多くの昆虫たちが集い、その季節を謳歌する恵まれた環境をもつこの附小にいます。ただ単に知識を増やしたり何かを理解したりするためだけに自然と戯れ、見つけた種を植え、チョウやカマキリなどの卵、テントウ虫の幼虫などを採集して育てるのではありません。い

ろんなものに命があり、その生き方に共鳴したり、また親しみをもったり、それらが生きる世界と自分の世界がこんなにも深く関わり合っていることに気付くことが大切です。さらに、その世界に自分がどのように関わっていくことができるのかを考える学習に取り組んでいます。6月17日(金)に開かれた複式授業研究会(5・6年合同の理科)では、「植物が酸素を出している」仮説を検証するため、前日の雨の中、こんな日でも酸素を出すかどうかを調べようと校庭の樹木にビニル袋を被せる子どもの姿がありました。もちろんここにも、教師が先回りしすぎて子ども達の活動や思考を止めてしまうことがないようにするとともに、子ども達が見通しをもって問題を解決していく活動が展開されるようにすることが大切だと考えています。



聖武天皇の大仏づくり

～大仏づくりから奈良時代を考えよう！～

社会科

6年A組担任

片桐 宏



大仏は、奈良時代を代表する巨大な建造物です。この大仏が、どのような背景で造られたのかを様々な視点から考えることで、天皇を中心とする国の仕組みを整えていった様子を学習しました。

『大仏の大きさ調べ』から楽しく学習がスタートし、『疑問に思ったこと、もっと調べたいこと』を学習問題にまとめ、討論形式で『聖武天皇の思いや願い』を中心に話し合いました。また、『大仏新聞』をつくることで、奈良時代の農民のくらしや大陸文化の摂取などの、事実に基づいた考えを出すことができました。

大仏の左手をつくろう！
(大きさ調べ)

- ・高さ.....約16m
- ・重さ.....約250t
- ・左手の長さ.....約3.2m

思ったより、大きいぞ！



私の身長と比べて！



疑問に思ったこと、調べてみたいことは？

- ・つくり方
- ・つくった目的
- ・聖武天皇の願い
- ・ビルシャナ仏とは
- ・材料
- ・時間
- ・すごい技術
- ・建立に携わった人数

ぼくの考えは・・・

調べてみよう！

これほど大きな大仏をつくる必要があったのか？
(聖武天皇の思いや願いを中心に) 討論形式
必要だったのか？ 必要なかったか？

この話し合いでは、聖武天皇が国をあげての一大事業として、大仏をつくった思いや願いが多く出されました。それと対比して、たくさんの資材や農民が集められ、天皇による全国支配の仕組みが整えられた考えも出てきました。奈良の大仏が国内体制に果たした役割も理解しました。ここでの学習が、次の『大仏新聞』づくりに反映できました。

『大仏新聞』をつくろう！

・752年 天平勝宝4年4月9日 大仏開眼の日の新聞づくり

From Editors

トップページでご紹介しました夏季公開研修会が7月に開催されます。詳しい情報はHPにてご紹介しています。奮ってご参加ください。

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp